

ポイント

◆◆特集◆◆

★奈良公園周辺の渋滞緩和に向けた社会実験  
～パーク&バスライドの利用促進～★  
(奈良県 県土マネジメント部 道路環境課)

奈良市中心市街地は、世界遺産にも登録されている奈良公園（春日山原始林）をはじめ、主要な観光地が集積しており、春と秋の観光シーズンには、観光を目的とした自動車来訪者が集中し、中心市街地の道路で大きな渋滞が発生している。そこで、奈良県ではマイカー流入抑制を目的とした、パーク&バスライドを2011年より実施してきたが、依然として慢性的な渋滞が発生していたため、奈良公園周辺の渋滞緩和に向けた社会実験を、2018年の秋期に実施することとした。本稿では、実施した取組内容と結果について発表する。

◆◆訴訟事例紹介◆◆

★道路工事の現場において、工事により掘削されていた穴に普通乗用自動車転落し、  
国家賠償法2条1項等に基づき、損害賠償請求がなされた事例★  
(平成29年2月2日和歌山地方裁判所御坊支部判決)  
(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

【事案の概要】

本件は、原告が乗用車で走行中に道路工事により掘削していた穴に転落し、車両が全損し、原告が傷害を負ったとして、道路管理者及び工事請負業者に対し、国家賠償法2条1項等に基づく損害賠償請求がなされたものである。

【判決要旨】

- 争点1 被告らの責任については、本件道路の管理に瑕疵があるとされ、また、工事請負業者についても安全対策を怠った義務違反があったとされた。
- 争点2 本件事故の態様及び原告（運転者）の過失については、原告の過失割合は大きいものの、工事現場への進入禁止を容易に認識できるような措置をしなかったことから、原告の過失割合は50パーセントとされた。
- 争点3 原告らの損害については、原告の主張のうち代車費用や通院慰謝料が減額される等一部認められない項目があった。

## ◆◆TOPICS◆◆

### ★『防災・減災対策等強化事業推進費』を創設しました！～新制度のご案内～★

(国土交通省 国土政策局 広域地方政策課 調整室)

「事前防災・減災対策」、「再度災害防止対策」、「事故の再発防止対策」に活用できる、防災・減災対策等強化事業推進費を創設しました。

概要、令和2年度の募集スケジュール、活用事例を紹介します。

## ◆◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◆

### ★車載型センシング装置を活用した道路情報便覧収録による 特殊車両通行許可の迅速化の取組について★

(北海道開発局 建設部 建設行政課)

北海道開発局における特殊車両（以下「特車」という。）通行許可件数は、平成26年度約8,000件でしたが、平成30年度は約17,000件と2倍以上に増加しました。全国的にも3週間程度でした許可までの日数が、申請内容によっては2か月ほど掛かる事例もあったところです。本稿では特車許可迅速化に向けて、車載型センシング装置を活用した道路情報便覧収録の取組みについて紹介します。

.....

### ★東京都の道路管理 ～多発する風水害や雪害への対応～★

(東京都 建設局 道路管理部 保全課)

東京都はそれぞれ違った特徴を持った区部・多摩地域・島しょ地域を有しており、約2240kmの道路を管理している。令和元年度の台風では、多摩地域、島しょ地域の山岳道路を中心に大きな被害が発生した。本稿では、台風被害・災害対応の事例とともに、近年多発する風水害・雪害に対応する東京都の道路管理について紹介する。

## ◆◆編集後記◆◆

久しぶりに遠方の温泉に出かけました。強酸性の湯が特徴で、ピリピリとした刺激が思いのほか痛く、1分程度浸かるのが限界でした。その後は、刺激のない蒸気浴や岩盤浴を楽しむことができましたので、満足のゆく温泉体験となりました。

この度の旅行は、強酸性の温泉に浸かるという目的のほか、武家屋敷が残る街並みの散策を楽しみにしていました。しかしながら、大雪に見舞われてしまい、散策は断念し、観光タクシーで武家屋敷周辺を巡ることにしました。ドライバーを兼ねた観光ガイドの方に、武家屋敷のほか、観光客に人気の飲食店や土産物店などを、効率よく案内してもらうことができました。帰る時間の都合もあり、昼食は30分で済ませてくださいと、時折急かされたりもしましたが、背景を活かした構図で記念写真を撮ってくれたり、道中で学んだ知識をおさらいするためのクイズを車中で出してくれたり、頼もしくて楽しいガイドさんに巡り合えた旅でした。

武家屋敷巡りで訪れたのは、江戸時代につくられた城下町で、枡形（ますがた）道路の名残のある町でした。枡形道路とは、道に行き止まりのように見える箇所を作ることで見通しを避け、外敵から防衛する役割を持つ道路です。城下町ではよく使われた手法ですが、今日では、防衛の意味合いはなくなり、代わって、景観形成の一役を担っています。10m程の幅員がある広い道路には街路樹や電柱がなく、道路に並行する形で黒塗りの塀が連続しています。この塀伝いにある門をくぐると、茅葺屋根が印象的な武家屋敷が姿を現します。正玄関と脇玄関の2つの玄関のある格式高い武士の屋敷で、正玄関は主人より上位もしくは同格の身分の者しか使えず、客の格式に応じて使い分けられていたそうです。屋敷内には、囲炉裏、移動式の物干し竿、野菜貯蔵庫など、当時の生活に必要な道具や設備があり、蔵には、教科書で見たことのある古い書物等が展示されていました。

屋敷が並ぶ通りには、屋敷の庭よりせり出した樹齢300年ほどの枝垂桜（しだれざくら）の枝や、モミヤカシワなどの巨木が、まるで街路樹のような様子を呈し、緑に囲まれた美しい街並みが形成されていました。長い年月をかけて成長したこれらの樹木があるからこそ、当時と同じ町の区画が現存しているそうです。

まもなく、満開の枝垂桜が道路の沿道を埋め尽くす、とても美しい光景が広がる季節がやってきます。例年であれば、観光需要が見込まれるこの時期ですが、不要不急の移動の自粛要請などもあり、訪れる人が少なくなることが心配されています。このような状況が一日も早く終わり、苦しむ人が少しでも増えぬよう祈るしかありません。(U)